

天文博物館五島プラネタリウム開館満20周年祝賀会を開催

小 田 泰 正*

学会の事務局より「天文博物館五島プラネタリウムで開館満20周年記念祝賀会を行ったそうだが、その模様を報告せよ」と云う電話を頂戴しました。

多分この祝賀会には学会の諸先生方のご出席があったからであろうと考え、ここにご報告申し上げる次第であります。

去る5月23日(月)渋谷の東急文化会館ゴールデンホールに於て午後4時から約2時間、盛会の中にも和やかな雰囲気で開催することができました。出席の構成メンバーは理事、評議員、星の会委員の外に都内科学系博物館の代表者並びに東京急行関係の役員と旧職員、遠方からは大阪の電気科学館、名古屋市立科学館からもご出席を賜りました。

先ず五島昇理事長が急に所用で出席できなくなり、山本常務理事が代って挨拶を行いました。開館当初のいきさつ、そして開館以来約885万人の入館者があったこと、その約60%が青少年であり、また聊かなりとも天文に関する知識の啓発と相互研修のお役に立っていると云う主旨でありました。

続いて野尻抱影先生より祝辞が届けられ、特に先生のご指名もありまして大崎正次先生が代読されました。野尻先生は、さかのぼること20年前の開館の式典で、2代目現理事長が挨拶した時の模様をこと細かく想い起こされ、財団法人としてその運営に学界から多くの先生方の参画を得てスタートした事を讃えられ、銀灰色のドームは永久に輝くであろうと結ばれました。

次に鎌木政岐館長より開館以来勤続20年の職員豊川秀治、小林悦子、大谷豊和の3名の表彰式が行われ彰状と記念品がそれぞれ手渡されました。



ユーモラスに祝辞を述べられる茅誠司理事



記念式典参会者スナップ

続いて交通博物館古屋善亮館長の音頭によって乾杯を行い、テーブルを囲んで三三五五に懇談がかわされました。

その後、ご多忙のため少々遅れて到着された、茅誠司先生からお祝いのことばを頂戴致しました。やはり開館当時の想い出話为中心で、特に五島プラネタリウム創立以前、世話人代表として、設立をうながすため初代理事長五島慶太翁をくどき落す役割を果され、意外に簡単に承知されたので吃驚されたと云う裏話が披露されました。

こうして天文博物館五島プラネタリウムは誕生した訳ではありますが(設立に到る経緯は日本科学史学会編、日本科学技術大系14地球宇宙科586頁資料14-6に詳述してあります)非常に恵まれた学界の諸先生方の手厚いご支援によって満20才の成年に達したのであります。最近では同種施設が、全国に約60館ほどありますが羨望の的になっているようであります。

最後になりましたが、この紙面をお借りしまして深く感謝申し上げる次第であります。今後共よろしく、ご指導のほどをお願い申し上げます。

尚、当館の理事、評議員、監事、星の会委員は次の通りであります。(敬称略)



鎌木館長より表彰を受ける永年勤続職員

* 五島プラネタリウム Y. Oda

理事	評議員	
五島昇	大山松次郎	増田誠一
山本忍	朝比奈貞一	八木勇平
茅誠司	藤田良雄	樋谷健介
萩原雄祐	村山定男	寺沢正男
鑄木政岐	岩堀喜之助	星の会委員
宮地政司	佐藤亮一	野尻抱影
野尻抱影	古畑正秋	鑄木政岐
木下久雄	大崎正次	村山定男
大塚秀雄	原 恵	水野良平
広瀬秀雄	水野良平	大崎正次
監事	末元善三郎	小森幸正
唐沢勲	古在由秀	小山ひさ子
寺中作雄	田中 勇	佐久間精一
	馬淵寅雄	木村精二
		原 恵



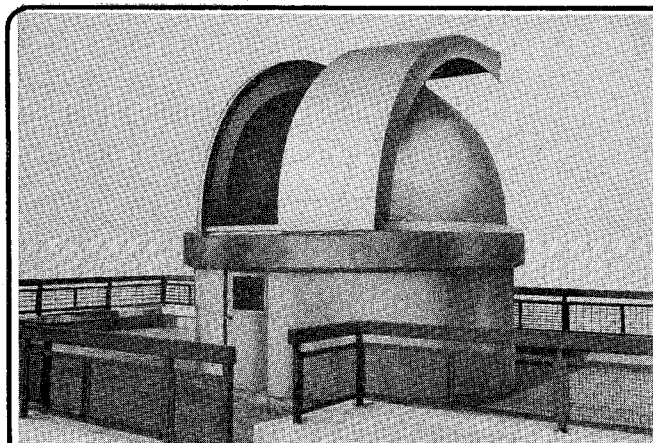
パーティースナップ（右より山本常務理事，茅，宮地，鑄木各理事）

雑 報

「天文学報」の英訳出版始まる

中国語の天文学雑誌として知られている「天文学報」の英語訳がこのたびイギリスのペルガモン・プレスから出版の運びとなった。いままでは言語の障壁により、世

界の天文学界から孤立しがちだった中国の天文学が、これを機会に世界の仲間入りを果たせるのではないかと期待される。出版社のアナウンスによると、新たな英訳誌には、もとの中国語誌の最も新しい号からだけではなく、1974年以來の既刊号からも重要な論文のいくつかを、英訳掲載して行く方針とのことである。（大木健一郎）



営業品目

- ★天体望遠鏡ならびに双眼鏡
- ★天体写真撮影用品及び部品
- ★望遠鏡各種アクセサリ
- ★観測室ドームの設計・施工



← L N-10 E 型
25cm 反射赤道儀

★総合カタログ
ご希望の方は切
手 300 円同封お
申込みください

ASTRO 光学工業株式会社



〒170 東京都豊島区池袋本町2-38-15 ☎03(985)1321